

四国1位から全国1位肉用鶏に！

—誰でもできる飼育・管理をめざして—

株式会社ヤマニファーム（肉用鶏経営・高知県大月町）

地域の概況

株式会社ヤマニファームは、高知県南西部の幡多地域の月町に位置している。月町は、年間を通じて温暖で多雨、風が強く変化に富んだ気候が特徴である。海岸部は「足摺宇和海国立公園」に指定されている。農業は、稲作のほか、葉タバコ栽培や施設園芸（なす）が盛んである。畜産農家は5戸あり、酪農が1戸、肉用牛が2戸、養豚が1戸、肉用鶏1戸である。

経営・活動の推移

【高知県に移住して挑戦】

～実家手伝いから独立就農～

大学中退後、平成10年に養鶏業を営む愛媛県の実家でブロイラー飼育管理、生鳥運搬および飼料運搬を開始した。しかし、平成11年に高知県大月町の養鶏場が経営中止することを知り、単身で大月町に移住した。平成12年にスーパーL資金の融資を受け、農場を借りて、飼育羽数1万羽規模でブロイラー経営を開始した。

【法人の設立】

～四国1位を目指して～

景気動向や原材料価格の変動、需要の増加に対応するため、スーパーL資金を活用して土地、建物、開放鶏舎、飼料運搬車、鶏ふん



（写真1）従業員集合写真（後列中央：経営主の井上孝秀さん、右端：妻ののり子さん）

ボイラーを取得した。その後、平成19年に実家の屋号を受け継ぎ、「株式会社ヤマニファーム」を設立した。さらに、スーパーL資金を活用して四国初のシステム鶏舎を導入した。平成26年にはオランダで開催された畜産展示会で最新のシステム畜舎を視察し、その飼育管理技術の高さに刺激を受けた。これをきっかけに、計画的にスーパーL資金や国の畜産クラスター事業を活用し、合計4回の規模拡大を行った。現在、木造鶏舎8棟、鉄骨鶏舎10棟の合計18棟を有し、常時飼育羽数は254千羽、年間出荷羽数は1,463千羽である。創業24年で、年間飼育羽数は四国第1位を達成した。

経営・技術の特徴等

【生産性の高い経営】

～だれでも高品質な肉用鶏を生産管理できるシステムづくり～

生産技術は、平均出荷日齢45.6日、出荷回

(表1) 経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養羽数	経営・活動の内容
平成10年	肉用鶏		大学中退後、愛媛県の実家でプロイラー飼育管理・生鳥運搬および飼料運搬開始
平成11年	肉用鶏		昭和51年から操業していた農場が高齢化で経営中止するのを機に、単身で高知県大月町へ移住
平成12年	肉用鶏	プロイラー 20万羽	L資金を活用して、鶏舎修繕・改築後、借地にて1万羽飼育を開始 認定農業者に認定
平成13年	肉用鶏	プロイラー 20万羽	高知西南豪雨の被害に遭う（農場進入路被害で3日間孤立状態となり、1週間給餌ができない状況に陥る）
平成16年	肉用鶏	プロイラー 20万羽	L資金を活用して土地・建物を取得
平成17年	肉用鶏	プロイラー 31万羽	L資金を活用して開放鶏舎 3棟11万羽増 飼料運搬12t車導入（中古車）
平成19年	肉用鶏	プロイラー 31万羽	株式会社ヤマニファーム設立 鶏ふんボイラー導入 プロイラー管理作業員1名増 飼料運搬員1名増
平成20年	肉用鶏	プロイラー 53.5万羽	L資金を活用して四国初となる新築システム鶏舎2棟22.5万羽増 プロイラー管理作業員1名増
平成23年	肉用鶏	プロイラー 88万羽	L資金を活用して3棟34.5万羽増 飼料運搬車12t導入 プロイラー管理作業員1名増
平成24年	肉用鶏	プロイラー 88万羽	8月台風11号の被害に遭う（約5,000羽死亡・新築1棟半壊・他2棟屋根損壊など）
平成26年	肉用鶏	プロイラー 88万羽	オランダVIV畜産展示会・最新システム鶏舎視察 1棟5.5万羽7回転に刺激を受ける
平成27年	肉用鶏	プロイラー 108.7万羽	年間6回転へ
平成28年	肉用鶏	プロイラー 108.7万羽	プロイラー作業員1名増 障害者雇用開始
令和2年	肉用鶏	プロイラー 148.3万羽	クラスター事業を活用してシステム鶏舎3棟40.8万羽増 ロータリー攪拌式堆肥舎 袋詰め機 導入 飼料運搬車25t 導入 飼料ストック基地新築 鶏ふん堆肥を集落営農・町内耕種農家に配布
令和3年	肉用鶏	プロイラー 148.3万羽	自社ブランド「よさこい尾鶏」商標登録
令和4年	肉用鶏 レモン	プロイラー 148.3万羽 レモン400本	L資金を活用して葉タバコ耕作跡地6.8ha購入 飼料運搬車8t 導入 レモン苗木400本植樹 障がい者2人目 雇用開始
令和5年	肉用鶏 レモン 河内晩柑	プロイラー 148.3万羽 レモン1,100本 河内晩柑300本	レモン苗木700本植樹 河内晩柑苗木300本植樹 自社生産レモン使用バスソルト販売 プロイラー・レモン作業員1名増

転率6回、平均出荷体重3.1kg、飼料要求率1.57、育成率96.1%と高い成績である。大型システム鶏舎8棟の建物サイズおよび制御機能等の規格を統一した。管理者が誰でも飼育できるように、システム鶏舎、開放鶏舎ともに

温度センサーと加熱器との位置関係を共通化し、管理者全員が温度管理の状況を共有している。併せて、入雛準備作業・ガード広げなどの管理作業手順を統一した。

(表2) 経営実績 (令和5年度)

経営概要	労働力員数 (畜産・2000hr換算)	家族・構成員	1.3人
		雇用・従業員	8.6人
	肉用鶏平均飼養羽数		253,741羽
	肉用鶏年間餌付羽数		1,522,443羽
	肉用鶏年間出荷羽数		1,487,392羽
収益性	所得率		12.0%
	肉用鶏100羽当たり生産費用		12,173円
生産性	出荷回転率		6.0回
	平均飼育日数		45.6日
	平均休室日数		15.2日
	平均出荷日齢		45.6日
	肉用鶏出荷100羽当たり出荷時体重		313.7kg
	育成率		96.1%
	飼料要求率		1.57
	生体1kg当たり販売価格		177.7円
	鶏舎1m ² 当たり年間出荷羽数		90.4羽
	肉用鶏出荷100羽当たり投下労働時間		1.33時間



(写真2) 規格を統一した鶏舎



(写真3) デジタル化したマニュアル

【SDGsへの取り組み】

～地域資源を活用した高品質で安全・安心の鶏肉生産・販売～

鶏肉の生産拡大と雇用の創出を目指し、鶏ふん堆肥を施用して地域で生産された飼料用米を活用し、高品質で安全・安心な地域産品の鶏肉を生産、販売することを目的として、耕種農家、JA、飼料会社、大月町ふるさと振興公社、大月町および県で構成する大月町畜産クラスター協議会を設立した。

【飼料用米利用と鶏ふん堆肥利用】

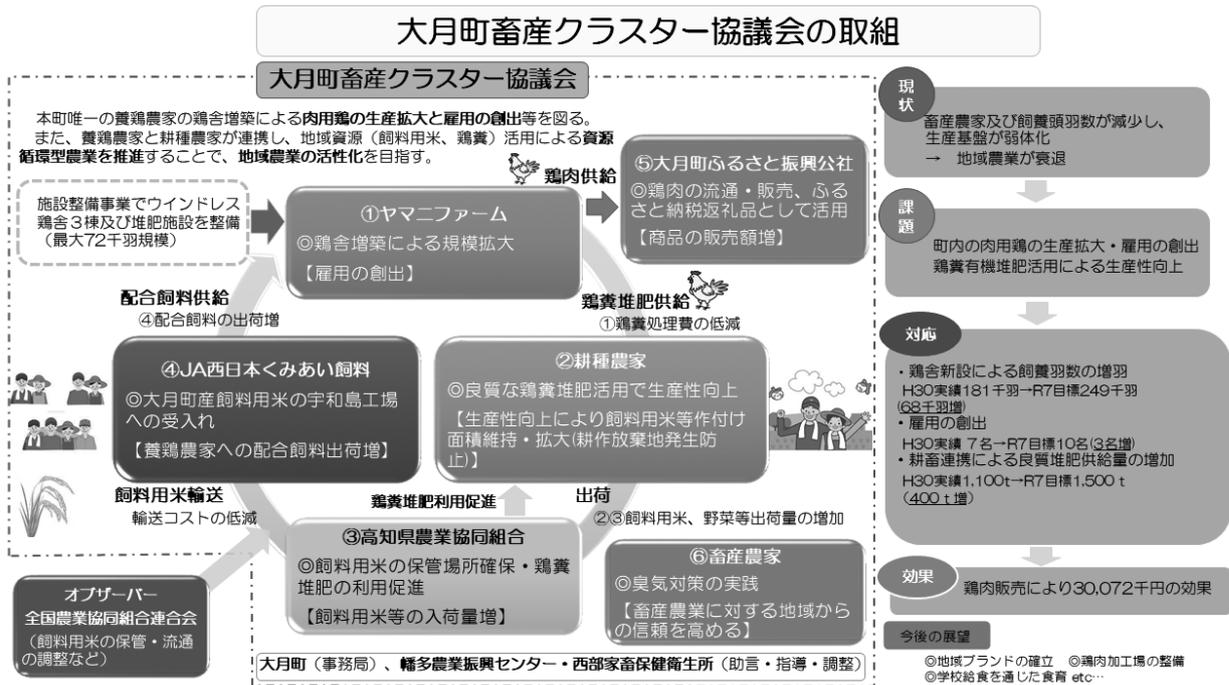
～付加価値の高い特殊肥料で耕種農家と連携～

平成19年に、鶏舎加温用の鶏ふんボイラーをリースで導入後、令和2年にロータリー攪拌式堆肥舎、肥料袋詰め機および鶏ふんボイラーを導入した。鶏ふんボイラーで生産する焼却灰317tを鶏ふん堆肥と混合し、リン酸、カリ成分を強化した鶏ふん堆肥を特殊肥料として、飼料用米を生産する集落営農組織、ブロッコリー、芋、菜花などの野菜農家およびゆずや晩柑などの果樹農家に年間1,817tを供給している。

【自社生産プロイラーのブランド化】

～高品質+SDGs+アニマルウエルフェア+おいしさ～

高知県から全国に広がった「よさこい鳴子踊り」のように、多くの消費者の皆様にご賞味いただきたいとの思いを込めて、令和3年に「よさこい尾鶏」を商標登録した。飼料用米を給与して生産した鶏を、処理前にストレスを与えないように炭酸ガス麻酔で眠らせて、国内で初めて導入された空気冷却方式(エアチラー)と水冷式を併用して解体したものを「よさこい尾鶏」として出荷している。鶏に与えるストレスが少ないため、肉質が柔らかく、水っぽさがなく、鮮度を高く保った鶏肉を提供している。全国の百貨店、小売店、レストラン、通信販売および大月町ふるさと振興公社(道の駅大月)で取り扱われており、大月町のふるさと納税の返礼品にも採用されている。



(写真4) 大月町畜産クラスター計画



(写真5) よさこい尾鶏の登録商標



(写真6) よさこい尾鶏の製品（一部）

【新しい試み】

～レモン栽培・新商品への挑戦～

令和3年に、大月町の主要産業の1つであった葉タバコの廃作が増えたことをきっかけに、「よさこい尾鶏」の唐揚げとレモン果実を一緒にご賞味いただけないかと考えた。葉タバコ農家10戸から農地6.8haを取得し、令和4年から合計1,100本を定植し、レモン栽培を開始した。令和5年に「こじゃんとレモン」



(写真7) レモン果実と入浴剤

を商標登録後、大月町のブランド商品として、大月町ふるさと振興公社で販売している。また、令和5年から松田医薬品株式会社と提携して、レモン果肉入りの入浴剤の販売を開始した。

【配合飼料価格高騰への対応】

～運送コスト低減と災害対応～

飼料コストを削減するため、平成17年に飼料運搬車を導入し、飼料運搬を開始した。以降、規模拡大に合わせて飼料運搬車を増車している。これにより、県内の他農家と比較して、1tあたり（年間375万円/年）以上のコスト削減を実現している。また、災害時の対応として、飼料ストック基地を設置している。

地域に対する貢献

【耕畜連携による地域農業への貢献】

～循環型農業への貢献～

令和2年から、大月町畜産クラスター協議会は、畜産クラスター計画に基づき、大月町、JAおよび県と連携し、集落営農や飼料用米農家などに、鶏ふん堆肥を無償で2,000袋および230tを配布した。耕種農家が継続的に鶏ふ

ん堆肥を利用することで、収穫された飼料用米を配合した飼料を鶏に給与し、資源の地域内循環を達成した。

【地域の雇用への貢献】

～地元雇用と農福連携～

地元町民6名と障がい者2名を常時雇用している。また、近隣町民4名、出荷時のアルバイトとして延べ2,498人（8名×312日/年）を雇用し、地域の雇用創出に貢献している。

【食育への貢献】

～食の大切さと畜産への理解醸成～

平成28年から、大月町の小・中学校給食の給食メニューに自社生産の鶏肉を食材として提供している。また、地元中学校で食育をテーマとした講義を行った。自社生産の鶏肉とレモンを組み合わせたメニューは、生徒からリクエストが出るなど、好評を得ている。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

【重要な女性の活躍】

～会社の成長に欠かせない存在～

女性が働きやすい環境を整えるために、令和2年に女性専用のトイレ、休憩室、更衣室



(写真8) 飼料運搬車と飼料ストック基地



(写真9) 地元中学校校での講義

およびシャワールームを備えた管理棟を設置した。また、女性の視点を活かした「よさこい尾鶏」や「こじゃんとレモン」のブランド戦略を構築するため、女性消費者に訴求する商品企画やデザイン制作に女性を登用した。レモンの入浴剤など、女性目線の社会的ニーズやトレンドを反映した商品開発に取り組み、令和5年に販売を開始した。顧客開拓については、女性が中心となって商談会に参加し、女性らしさをいかした営業トークやプレゼンテーションを展開した。高いコミュニケーション能力で、新規顧客の獲得や強い信頼関係を構築しており、自社の販売戦略に欠かせない存在となっている。

将来の方向性

【次世代への継承および今後の経営計画】

～四国1位から日本1位へ～

家族に限定せず、経営継承候補者の中から経営者としての適性がある後継者を選定する予定である。充実した教育や訓練を実施して、経営継承計画を策定する。経営継承後も持続的なサポートやアドバイスをを行う。

さらに、ブロイラー産地の九州・東北へ進出することを目標に、大規模化に対応した経営と生産技術を組み合わせたいと考えている。

また、仲間づくりのために、「生産技術指導・アドバイザー業務」を開始した。市場動向の把握とイノベーションの推進、組織の強化を通じて、時代に乗り遅れない経営を目指している。